

2級商業簿記

確認テスト

目次

- 第1回 損益計算書・貸借対照表
- 第2回 銀行勘定調整表
- 第3回 有価証券
- 第4回 手形
- 第5回 引当金
- 第6回 債務の保証、未決算
- 第7回 役務収益、商品売買
- 第8回 固定資産(1)
- 第9回 固定資産(2)、リース取引
- 第10回 株式会社会計
- 第11回 税金
- 第12回 外貨建取引
- 第13回 本支店会計
- 第14回 連結会計(1)
- 第15回 連結会計(2)

※1回あたりの制限時間は5分です。

採点欄

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 1 回 ～

以下の損益計算書および貸借対照表に、適切な語句を記入しなさい。

損益計算書

- I 売上高
- II 売上原価
売上総利益
- III ()
()
- IV 営業外収益
- V 営業外費用
()
- VI 特別 ()
- VII 特別損失
税引前当期純利益
法人税、住民税及び事業税
当期純利益

貸借対照表

資 産 の 部	負 債 の 部
I 流動資産	I 流動負債
II 固定資産	II 固定負債
1. 有形固定資産	純 資 産 の 部
2. () 固定資産	I ()
3. ()	1. 資 本 金
	2. 資本剰余金
	(1) ()
	(2) その他資本剰余金
	3. 利益剰余金
	(1) ()
	(2) その他利益剰余金
	任意積立金
	繰越利益剰余金
	II 評価・換算差額等
	1. ()

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 2 回 ～

採点欄

決算に当たり、当座預金勘定の残高と銀行からの残高証明書の残高に差異が生じていたため、原因を調査してみたところ以下の事項が判明した。必要な修正仕訳を行いなさい。なお、修正仕訳を行う必要のないものは「仕訳なし」と記入すること。また、解答欄の銀行勘定調整表を作成しなさい。金額の前の（ ）には仕訳の番号（例；(1)）を記入すれば良い。

- (1) 仕入先青森商事(株)に振り出した小切手¥120,000が、銀行に呈示されていなかった。
- (2) 当期において機械の修繕を行い、その代金¥50,000を小切手を作成し記帳も行ったが、決算日までに相手に未渡しであることが判明した。
- (3) 決算日に¥80,000を当座預金口座に入金したが、銀行ではそれを翌日付で預入記入していた。
- (4) 通信費¥30,000が当座預金口座から引落されていたが、決算日までに通知が届いていなかったため未記入であった。

銀行勘定調整表

○年3月31日

当座預金勘定残高	480,000	銀行残高証明書の残高	540,000
(加算)		(加算)	
()	()	()	()
(減算)		(減算)	
()	()	()	()
修正残高	<u>()</u>	修正残高	<u>()</u>

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第3回～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。なお、仕訳の必要がない場合は「仕訳なし」と記入すること。

1. 当期に売買目的で購入した長崎工業㈱の株式 2,500 株（取得原価@¥600）は、期末の時価が 1 株あたり ¥700 である。
2. 一時所有の売買目的で愛知通信㈱の社債（額面金額 ¥1,000,000）を 6 月 12 日に ¥100 につき ¥98（裸相場）で買い入れ、代金は端数利息を含めて小切手を振り出して支払った。
なお、社債の利率は年 5%、利払日は 3 月および 9 月の各末日である。
3. 当期首に満期まで保有する目的で高知産業㈱の社債（額面総額 ¥1,000,000、償還期間 5 年）を額面 ¥100 につき ¥95 で購入し、代金は小切手で支払った。
4. 決算に際し、上記 3. の債券について、償却原価法（定額法）により処理を行う。
5. 当期に秋田商事㈱の株式 800 株を @ ¥1,400 で取得していたが、期末の時価は @ ¥1,600 であった。なお、当社はこれまでに秋田商事㈱が発行する株式の過半数（50%超）を取得している。
6. 決算にあたり、当期に取得した新潟商事㈱の株式 1,000 株（その他有価証券として計上）について時価評価を行う。帳簿価額は 1 株当たり ¥700 であり、時価は 1 株あたり ¥800 である。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認 テ ス ト
～ 第 4 回 ～

採 点 欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. かねて振出していた約束手形¥150,000 について、支払期日までに資金を用立てることが難しくなったため、現在の手形所持人である宮城商事㈱に対して手形の更改を申し入れ、同社の了承を得て、旧手形と交換して、新手形を振り出した。なお、支払期日延長にともなう利息¥3,000 は現金で支払った。
2. 栃木物産㈱から受け取っていた同社振出しの約束手形¥250,000 を銀行で割引きに付し、割引料¥5,000 を差し引かれた残額を当座預金に預け入れた。
3. 長野産業㈱より商品¥600,000 を仕入れ、代金は山梨商事㈱振出しの約束手形¥400,000 を裏書譲渡し、残額は小切手を振り出して支払った。
4. 銀行で割引に付していた約束手形¥800,000 が不渡りになったので、同行に手形金額と遅延利息¥500 を当座預金口座から支払うとともに、その約束手形を振り出した愛知商会㈱に償還請求を行った。その費用¥5,000 は現金で支払った。
5. 石川商事㈱は電子記録債権のうち¥700,000 を銀行で割引き、割引料¥2,000 が差し引かれ、残額が当座預金口座に振り込まれた。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 5 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 当期に計上した売掛金¥48,000 が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金勘定残高は¥50,000であった。
2. 当期末に行う予定であった修繕が行えなかったため、決算時に修繕引当金¥300,000 を計上することとした。
3. 決算に際して、退職給付引当金への当期繰入額¥630,000 を計上する。
4. 当社の当期の純売上高は¥10,000,000 であった。当社では純売上高の2%の売上割戻が次期に予想されるので、売上割戻引当金を設定する。
5. 決算日に売掛金残高¥3,000,000 に対して、翌期の返品額を¥150,000 と見積もり、その額に売上総利益率30%を乗じた金額を返品調整引当金として計上した。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 6 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 取引先の鳥取商事(株)より、借入金¥3,000,000 の連帯保証人になって欲しいと依頼されたので、その申し出を引き受けることとした。

2. 備品（取得原価¥500,000、減価償却累計額¥180,000、間接法により記帳）が火災により焼失した。なお、焼失した備品には総額¥400,000 の保険が付されていたので、ただちに保険会社に保険金の支払いを請求した。

3-1) 保険会社より、2.の火災について、保険金全額の支払いを行う旨、連絡があった。

3-2) 保険会社より、2.の火災について、¥300,000 の保険金の支払いを行う旨、連絡があった。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 7 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 大阪旅行社は、顧客からツアー代金¥250,000を受け取っていたが、本日、当該ツアーを催行した。なお、交通費や添乗員の給料など¥180,000を、小切手を振り出して支払った。
2. 得意先に対して¥20,000の割戻を行う旨の連絡を行い、掛代金から控除することとした。
3. 仕入先を買掛金¥570,000を支払うにあたって¥10,000の割引を受け、残額は小切手を振り出して支払った。
4. 決算にあたり、商品に関する決算整理を行う。期首の商品は¥230,000であり、期末の商品は以下のとおりである。

帳簿棚卸数量	1,200 個	取得原価	@ ¥200
実地棚卸数量	1,195 個	正味売却価額	@ ¥180

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 8 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 大分建設㈱に工事を依頼していた建物が完成したので請負代金¥50,000,000のうち、すでに支払済みの¥30,000,000を差し引いた残額を、小切手を振り出して支払った。
2. 高知水産㈱は、営業用自動車（現金販売価額¥2,000,000）を割賦契約で購入した。代金は毎月末に支払期限の到来する額面¥220,000の約束手形10枚を振出して交付した。なお、利息相当額は前払費用勘定を用いること。
3. 当期に取得した備品の取得原価は¥8,000,000（自己資金¥5,000,000、国庫補助金¥3,000,000）であった。当該備品について、直接減額方式による圧縮記帳を行うことにした。
4. 決算にあたり備品（取得原価¥500,000、減価償却累計額¥180,000、残存価額は取得原価の10%）について減価償却を行う。なお、減価償却の計算方法は定率法（償却率20%）、仕訳方法は間接法を採用している。
5. 決算にあたり車両（取得原価¥2,000,000、減価償却累計額¥432,000、残存価額は取得原価の10%）について減価償却を行う。なお、減価償却の計算方法は生産高比例法（総見積走行可能距離80,000km、当期実績走行距離13,000km）、仕訳方法は間接法を採用している。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 9 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 決算にあたり、当期首に購入した備品（取得原価¥800,000）について減価償却を行う。なお、減価償却の計算方法は200%定率法（耐用年数8年）、仕訳方法は間接法を採用している。
2. 当期首に秋田商事㈱（資産合計¥10,000,000、負債合計¥7,000,000）を¥4,500,000で買収し、代金として小切手を振り出して支払った。なお、諸資産勘定、諸負債勘定を用いて仕訳を行うこと。
3. 決算にあたり、当期首に購入したソフトウェア（取得原価¥1,200,000）の償却を行う。なお、償却期間は5年、定額法による。
4. パソコンを年間リース料¥120,000、期間5年の条件でリースした。会計処理方法は、利子込み法によることとし、リース資産勘定、リース債務勘定を用いるものとする。
5. パソコンを年間リース料¥120,000、期間5年の条件でリースした。当該パソコンの見積現金購入価額は¥580,000である。会計処理方法は利子抜き法によることとし、リース資産勘定、リース債務勘定を用いるものとする。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 10 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 会社の設立にあたり、株式 1,000 株を 1 株 ¥70,000 で発行し、代金は現金で受け取った。
なお、資本への組み入れは会社法が認める最低限度額とする。
2. 増資にあたり、株式 1,000 株を 1 株 ¥80,000 で発行することとし株主の募集を行ったところ、
申込期日までに全株数が申込まれ、発行価額の全額を申込証拠金として受け入れ、別段預金と
した。
3. 払込期日に上記の申込証拠金を払込金に充当し、同時に別段預金を当座預金に預け入れた。
なお、資本への組み入れは会社法が認める最低限度額とする。
4. 決算にあたり、当期純利益 ¥320,000 を計上した。
5. 福島商会株は、株主総会を開催して剰余金の配当と処分を以下のように決定した。なお、当
社の資本金は ¥10,000,000、資本準備金は ¥1,000,000、利益準備金の既積立額は ¥500,000 で
ある。
利益準備金；会社法が定める金額、 配当金； ¥3,000,000、 別途積立金； ¥800,000

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 11 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 千葉産業㈱は、定期預金（1年満期、年利率3%）¥1,000,000を銀行に預け入れていたが、この定期預金が満期となり、利息¥24,000（源泉所得税20%を控除後）とともに普通預金口座に振り込まれた。
2. 決算にあたり、売掛金に対して貸倒引当金を¥70,000計上したが、うち¥20,000は税法上損金に算入することが認められなかった。なお、法人税等の法定実効税率は40%とする。
3. 決算にあたり、当期にその他有価証券として取得した静岡商事㈱株式（1,000株、1株あたり¥800で取得）の時価評価を行った。当該株式の時価は1株あたり¥900である。全部資本直入法によることとし、税効果会計を適用する。法定実効税率は40%である。
4. 決算にあたり、消費税の納付額を計算したところ、¥280,000と確定した。なお、当社は消費税の処理方法として、税込方式を採用している。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 12 回 ～

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 当社は2月28日に、アメリカの得意先に商品5,000ドルを輸出し、代金は掛とした。代金の決済日は5月31日の予定であり、2月28日の直物為替相場は1ドル¥105であった。
2. 当社は決算日(3月31日)を迎え、上記1.について必要な処理を行った。なお、決算日の直物為替相場は1ドル¥108であった。
3. 上記の売掛金について、アメリカの得意先より5,000ドルの送金があり、銀行で円貨に両替し、当社の当座預金口座に入金された。なお、この日の直物為替相場は1ドル¥110であった。
4. 当社はアメリカの仕入先より、商品2,000ドルを掛で仕入れた。この日の直物為替相場は1ドル¥113であったが、取引銀行との間で1ドル¥115の為替予約を行った。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 13 回 ～

採点欄

以下の本支店会計における仕訳を行いなさい。

1. 支店は本店に対し現金¥30,000を送付した。この場合における本店の仕訳を行いなさい。
2. 支店は本店の売掛金¥80,000を得意先から現金で回収した。この場合における支店の仕訳を行いなさい。
3. 岐阜支店は三重支店に対して、原価¥50,000の商品を送付した。当社は本店集中計算制度を採用している。この場合における本店の仕訳を行いなさい。
4. 決算にあたり、支店の当期純利益が¥70,000であることがわかった。この場合における支店の仕訳を行いなさい。

氏名 _____

簿記の教室 メイプル
2級 商業簿記
確認テスト
～ 第 14 回 ～

採点欄

以下の連結会計における仕訳を行いなさい。

1. P社はS社の発行する株式の80%を¥1,700,000で取得して支配した。このときのS社の資本金は¥1,200,000、利益剰余金は¥800,000であった。この場合の投資と資本の相殺消去仕訳を行いなさい。
2. P社とS社の投資と資本の相殺消去仕訳の結果、のれんが¥100,000であった。当該のれんを20年で償却する場合の仕訳を行いなさい。
3. S社の当期純利益は¥400,000であった。P社はS社の発行済株式の80%を所有し支配している。この場合の当期純利益の按分の仕訳を行いなさい。
4. S社は¥200,000の配当を行っている。P社はS社の発行済株式の80%を所有し支配している。この場合の配当金の相殺・修正仕訳を行いなさい。

簿記の教室 メイプル

2級 商業簿記

確認テスト

～ 第 15 回 ～

採点欄

氏名 _____

以下の資料にもとづいて、連結会計における未実現利益を消去する仕訳を行いなさい。

(資料)

P社はS社の発行済株式の80%を取得し支配している。以前よりP社はS社に原価の20%を加算した価額で商品を販売している。S社の在庫にはP社から購入したものが期首に¥120,000、期末に¥144,000あった。

1. 期末商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

2. 期首商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

(資料)

P社はS社の発行済株式の80%を取得し支配している。以前よりS社はP社に原価の20%を加算した価額で商品を販売している。P社の在庫にはS社から購入したものが期首に¥120,000、期末に¥144,000あった。

3. 期末商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

4. 期首商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

簿記の教室 マイブル

2級 商業簿記

確認テスト

～ 第 1 回 ～

氏名

採点欄

以下の損益計算書および貸借対照表に、適切な語句を記入しなさい。

損益計算書

I	売上高
II	売上原価
III	売上総利益 (販売費及び一般管理費)
IV	営業外収益 (営業利益)
V	営業外費用 (経常利益)
VI	特別損失
VII	特別損失
	税引前当期純利益
	法人税、住民税及び事業税
	当期純利益

貸借対照表

資産の部	負債の部
I 流動資産	I 流動負債
II 固定資産	II 固定負債
1. 有形固定資産	純資産の部
2. (無形)固定資産	I (株主資本)
3. (投資その他の資産)	1. 資本金
	2. 資本剰余金
	(1) (資本準備金)
	(2) その他資本剰余金
	3. 利益剰余金
	(1) (利益準備金)
	(2) その他利益剰余金
	任意積立金
	繰越利益剰余金
	繰越利益剰余金
	II 評価・換算差額等
	1. (その他有価証券評価差額金)

採点欄

氏名 _____

決算に当たり、当座預金勘定の残高と銀行からの残高証明書との残高に差異が生じていたため、原因を調査してみたところ以下の事項が判明した。必要な修正仕訳を行いなさい。なお、修正仕訳を行う必要のないものは「仕訳なし」と記入すること。また、解答欄の銀行勘定調整表を作成しなさい。金額の前の()には仕訳の番号(例;(1))を記入すれば良い。

(1) 仕入先青森商事欄に振り出した小切手¥120,000が、銀行に呈示されていなかった。

仕訳なし

(2) 当期において機械の修繕を行い、その代金¥50,000を小切手を作成し記帳も行ったが、決算日までに相手に未渡しであることが判明した。

当座預金 50,000 未払金 50,000

(3) 決算日に¥80,000を当座預金口座に入金したが、銀行ではそれを翌日付で預入記入していた。

仕訳なし

(4) 通信費¥30,000が当座預金口座から引落されていたが、決算日までに通知が届いていなかったため未記入であった。

通信費 30,000 当座預金 30,000

銀行勘定調整表

○年3月31日

当座預金勘定残高 (加算)	480,000	銀行残高証明書の残高 (加算)	540,000
(2)	(50,000)	(3)	(80,000)
(減算)		(減算)	
(4)	(30,000)	(1)	(120,000)
修正残高	(500,000)	修正残高	(500,000)

解答欄の銀行勘定調整表は、

「両者の残高を修正して一致させる方法」である。

銀行勘定調整表には、他に以下の2つの方法がある。

「会社の残高も銀行の残高に合わせる方法」

「銀行の残高も会社の残高に合わせる方法」

左記問題を上記の方法で作成すると、次のようになる。

まず、会社側と銀行側の処理をよめる。

会社	銀行	
(1) ↓	—	(会社では1成りしたが銀行はまだ減らしていない)
(2) ↓	—	"
(3) ↑	—	(会社では増やしたが、銀行はまた増やしていない)
(4) —	↓	(銀行では減らしたが、会社はまだ減らしていない)

「会社の残高と銀行の残高に合わせる方法」

会社の残高	480,000	銀行の残高	540,000
(加算) (1) 120,000		(加算) (3) 80,000	
(2) 50,000 + 170,000		(4) 30,000 + 110,000	
(減算) (3) 80,000		(減算) (1) 120,000	
(4) 30,000 + 110,000		(2) 50,000 + 170,000	
銀行の残高	540,000	会社の残高	480,000

「銀行の残高と会社の残高に合わせる方法」

銀行の残高	540,000	会社の残高	480,000
(加算) (3) 80,000		(加算) (4) 30,000 + 110,000	
(減算) (1) 120,000		(減算) (1) 120,000	
(2) 50,000 + 170,000		(2) 50,000 + 170,000	
会社の残高	480,000	銀行の残高	540,000

以下の取引を仕訳しなさい。なお、仕訳の必要がない場合は「仕訳なし」と記入すること。

1. 当期に売買目的で購入した長崎工業株の株式 2,500 株 (取得原価 ¥600) は、期末の時価が 1 株あたり ¥700 である。

売買目的有価証券 250,000 有価証券評価益 250,000

2. 一時所有の売買目的で愛知通信株の社債 (額面金額 ¥1,000,000) を 6 月 12 日に ¥100 につき ¥98 (繰相場) で買入れ、代金は端数利息を含めて小切手を振り出して支払った。なお、社債の利率は年 5%、利払日は 3 月および 9 月の各末日である。

売買目的有価証券 980,000 当座預金 990,000
有価証券利息 10,000

3. 当期末に満期まで保有する目的で高知産業株の社債 (額面総額 ¥1,000,000、償還期間 5 年) を額面 ¥100 につき ¥95 で購入し、代金は小切手で支払った。

満期保有目的債券 950,000 当座預金 950,000

4. 決算に際し、上記 3. の債券について、償却原価法 (定額法) により処理を行う。

満期保有目的債券 10,000 有価証券利息 10,000

5. 当期に秋田商事株の株式 800 株を @ ¥1,400 で取得していたが、期末の時価は @ ¥1,600 であった。なお、当社はこれまでに秋田商事株が発行する株式の過半数 (50%超) を取得している。

仕訳なし

6. 決算にあたり、当期に取得した新潟商事株の株式 1,000 株 (その他有価証券として計上) について時価評価を行う。帳簿価額は 1 株当たり ¥700 であり、時価は 1 株あたり ¥800 である。

その他有価証券 100,000 其他有価証券評価差額金 100,000

1. 売買目的有価証券は、時価法

取得 @ 600 × 2,500 株
1,500,000 円
期末時価 @ 700 × 2,500 株
1,750,000 円
+250,000 円
評価益

2. 端数利息
4月 → 30日
5月 → 31日
6月 → 12日
73日
1,000,000 円 × 5% × $\frac{73}{365}$ = 10,000 円

1,000,000 円 ÷ 100 円 = 10,000 口
10,000 口 × 98 円 = 980,000 円

3. 4. 取得 1年 95 円 2年 97 円 3年 98 円 4年 99 円 5年 100 円
1,000,000 円
100 円
= 10,000 口
取得 5年 100 円 - 95 円 × 10,000 口 = 10,000 円
償却額

5. 子会社株式や関連会社株式は、原価法。
本問は過半数を取得しているため、子会社株式である。

6. その他有価証券は、時価法

取得 @ 700 × 1,000 株
700,000 円
期末時価 @ 800 × 1,000 株
800,000 円
+100,000 円
評価益

採点欄

氏名 _____

以下の取引を仕訳しなさい。

- かねて振出していた約束手形¥150,000 について、支払期までに資金を立立てることが難しくなったため、現在の手形所持人である宮城商事㈱に対して手形の更改を申し入れ、同社の了承を得て、旧手形と交換して、新し形を振り出した。なお、支払期日延長にともなう利息¥8,000 は現金で支払った。

支払手形 150,000 支払手形 150,000
 支払利息 3,000 現金 3,000

- 栃木物産㈱から受け取っていた同社振出しの約束手形¥250,000 を銀行で割り引きに付し、割引料¥5,000 を差し引かれた残額を当座預金に預け入れた。

当座預金 245,000 受取手形 250,000
 手形売戻預 5,000

- 長野産業㈱より商品¥600,000 を仕入れ、代金は山梨商事㈱振出しの約束手形¥400,000 を裏書譲渡し、残額は小切手を振り出して支払った。

仕入 600,000 受取手形 400,000
 当座預金 200,000

- 銀行で割引に付していた約束手形¥800,000 が不渡りになったので、同行に手形金額と遅延利息¥500 を当座預金口座から支払うとともに、その約束手形を振り出した愛知商會㈱に償還請求を行った。その費用¥5,000 は現金で支払った。

不渡手形 805,500 当座預金 800,500
 現金 5,000

- 石川商事㈱は電子記録債権のうち¥700,000 を銀行で割り引き、割引料¥2,000 が差し引かれ、残額が当座預金口座に振り込まれた。

当座預金 698,000 電子記録債権 700,000
 電子記録債権売却預 2,000

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 当期に計上した売掛金¥48,000 が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金勘定残高は¥50,000であった。

貸倒損失 48,000 売掛金 48,000

2. 当期末に行う予定であった修繕が行えなかったので、決算時に修繕引当金¥300,000 を計上することとした。

修繕引当金繰入 300,000 修繕引当金 300,000

3. 決算に際して、退職給付引当金への当期繰入額¥630,000 を計上する。

退職給付費用 630,000 退職給付引当金 630,000

4. 当社の当期の純売上高は¥10,000,000 であった。当社では純売上高の2%の売上割戻が次期に予想されるので、売上割戻引当金を設定する。

売上割戻引当金繰入 200,000 売上割戻引当金 200,000

5. 決算日に売掛金残高¥3,000,000 に対して、翌期の返品額を¥150,000 と見積もり、その額に売上総利益率30%を乗じた金額を返品調整引当金として計上した。

返品調整引当金繰入 45,000 返品調整引当金 45,000

1. 当期に計上した売掛金の貸倒れは、当期の売上高の修正と行うため、貸倒引当金を用いる。貸倒損失と、費用として計上する。(当期の費用とする)

4. $10,000,000 \text{円} \times 2\% = \underline{\underline{200,000 \text{円}}}$

5. $150,000 \text{円} \times 30\% = \underline{\underline{45,000 \text{円}}}$

簿記の教室 マイブル

2級 商業簿記

確認テスト

～ 第 6 回 ～

採点欄

氏名

以下の取引を仕訳なさい。

1. 取引先の鳥取商事様より、借入金¥3,000,000 の連帯保証人になって欲しいと依頼されたので、その申し出を引き受けることとした。

保証債務見込 3,000,000 保証債務 3,000,000

2. 備品（取得原価¥500,000、減価償却累計額¥180,000、間接法により記帳）が火災により焼失した。なお、焼失した備品には総額¥400,000 の保険が付されていたので、ただちに保険会社に保険金の支払いを請求した。

備品減価償却累計額 180,000 備品 500,000
未決算 320,000

3-① 保険会社より、2.の火災について、保険金全額の支払いを行う旨、連絡があった。

未収入金 400,000 未決算 320,000
保険差益 80,000

3-② 保険会社より、2.の火災について、¥800,000 の保険金の支払いを行う旨、連絡があった。

未収入金 300,000 未決算 320,000
火災損失 20,000

採点欄

氏名 _____

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 大阪旅行社は、顧客からツアー代金¥250,000を受け取っていたが、本日、当該ツアーを催行した。なお、交通費や添乗員の給料など¥180,000を、小切手を振り出して支払った。

前受金 250,000 役員収益 250,000
 役員原価 180,000 当座預金 180,000

2. 得意先に対して¥20,000の割戻を行う旨の連絡を行い、掛代金から控除することとした。

売上 20,000 売掛金 20,000

3. 仕入先に買掛金¥570,000を支払うにあたって¥10,000の割引を受け、残額は小切手を振り出して支払った。

買掛金 570,000 仕入割引 10,000
 当座預金 560,000

4. 決算にあたり、商品に関する決算整理を行う。期首の商品は¥230,000であり、期末の商品は以下のとおりである。

帳簿棚卸数量	1,200 個	取得原価	¥200
実地棚卸数量	1,195 個	正味売却価額	¥180

仕入 230,000 繰越商品 230,000
 繰越商品 240,000 仕入 240,000
 棚卸減耗 1,000 繰越商品 1,000
 商品評価損 23,900 繰越商品 23,900

4. 期首商品 : $1,200 \times 200$ 円 = 240,000円
 棚卸減耗 : $(1,200 - 1,195) \times 200$ 円 = 1,000円
 商品評価損 : $(200 - 180) \times 1,195 = 23,900$ 円

氏名

採点欄

以下の取引を仕訳下さい。

1. 大分建設機に工事を依頼していた建物が完成したので請負代金 ¥50,000,000 のうち、すでに支払済みの ¥30,000,000 を差し引いた残額を、小切手を振り出して支払った。

建物 50,000,000
 建設仮勘定 30,000,000
 当座現金 20,000,000

2. 高知水産㈱は、営業用自動車（現金販売価額 ¥2,000,000）を割賦契約で購入した。代金は毎月末に支払期限の到来する額面 ¥220,000 の約束手形 10 枚を振出して交付した。なお、利息相当額は前払費用勘定を用いること。

車両運搬具 2,000,000
 前払費用 200,000
 営業外支払手形 2,200,000

3. 当期に取得した備品の取得原価は ¥8,000,000（自己資金 ¥5,000,000、国庫補助金 ¥3,000,000）であった。当該備品について、直接減額方式による圧縮記帳を行うことにした。

固定資産圧縮額 3,000,000
 備品 3,000,000

4. 決算にあたり備品（取得原価 ¥500,000、減価償却累計額 ¥180,000、残存価額は取得原価の 10%）について減価償却を行う。なお、減価償却の計算方法は定率法（償却率 20%）、仕訳方は間接法を採用している。

減価償却費 64,000
 備品減価償却累計額 64,000

5. 決算にあたり車両（取得原価 ¥2,000,000、減価償却累計額 ¥432,000、残存価額は取得原価の 10%）について減価償却を行う。なお、減価償却の計算方法は生産高比例法（総見積走行可能距離 80,000 km、当期実績走行距離 13,000 km）、仕訳方法は間接法を採用している。

減価償却費 292,500
 車両減価償却累計額 292,500

2. 営業外支払手形 : 220,000 円 × 10 枚 = 2,200,000 円

4. 減価償却費 :

$$(500,000 - 180,000 \text{ 円}) \times 20\% = \underline{\underline{64,000 \text{ 円}}}$$

5. 減価償却費 :

$$2,000,000 \text{ 円} \times 0.9 \times \frac{13,000 \text{ km}}{80,000 \text{ km}} = \underline{\underline{292,500 \text{ 円}}}$$

氏名 _____

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 決算にあたり、当期首に購入した備品（取得原価 ¥800,000）について減価償却を行う。なお、減価償却の計算方法は 200%定率法（耐用年数 8 年）、仕訳方法は間接法を採用している。

減価償却費 200,000 備品減価償却累計額 200,000

2. 当期首に秋田商事機（資産合計 ¥10,000,000、負債合計 ¥7,000,000）を ¥4,500,000 で買収し、代金として小切手を振り出して支払った。なお、諸資産勘定、諸負債勘定を用いて仕訳を行うこと。

諸資産 10,000,000 諸負債 7,000,000
のちん 1,500,000 当座現金 4,500,000

3. 決算にあたり、当期首に購入したソフトウェア（取得原価 ¥1,200,000）の償却を行う。なお、償却期間は 5 年、定額法による。

ソフトウェア償却費 240,000 ソフトウェア 240,000

4. パソコンを年間リース料 ¥120,000、期間 5 年の条件でリースした。会計処理方法は、利子込み法によることとし、リース資産勘定、リース債務勘定を用いるものとする。

リース資産 600,000 リース債務 600,000

5. パソコンを年間リース料 ¥120,000、期間 5 年の条件でリースした。当該パソコンの見積現金購入価額は ¥580,000 である。会計処理方法は利子抜き法によることとし、リース資産勘定、リース債務勘定を用いるものとする。

リース資産 580,000 リース債務 580,000

1. 償却率： $\frac{1}{8年} \times 200\% = 0.25 (25\%)$
減価償却費： $800,000円 \times 25\% = 200,000円$

3. 償却額： $1,200,000円 \div 5年 = 240,000円$

4. 利子込み法は、利息を含めた支払総額と取得原価とを
 $120,000円 \times 5年 = 600,000円$

5. 利子抜き法は、利息を除いた見積現金購入価額と取得原価とを
とる。

採点欄

氏名 _____

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 会社の設立にあたり、株式1,000株を1株¥70,000で発行し、代金は現金で受け取った。
なお、資本への組み入れは会社法が定める最低限度額とする。

現金 70,000,000 資本金 35,000,000
資本準備金 35,000,000

2. 増資にあたり、株式1,000株を1株¥80,000で発行することとし株主の募集を行ったところ、申込期日までに全株数が申込みられ、発行価額の全額を申込証拠金として受け入れ、別段預金とした。

別段預金 80,000,000 株式申込証拠金 80,000,000

3. 払込期日に上記の申込証拠金を払込金に充当し、同時に別段預金を当座預金に預け入れた。
なお、資本への組み入れは会社法が定める最低限度額とする。

株式申込証拠金 80,000,000 資本金 40,000,000
当座預金 80,000,000 資本準備金 40,000,000
別段預金 80,000,000

4. 決算にあたり、当期純利益¥320,000を計上した。

損益 320,000 繰越利益剰余金 320,000

5. 福島商會社は、株主総会を開催して剰余金の配当と処分を以下のように決定した。なお、当社の資本金は¥10,000,000、資本準備金は¥1,000,000、利益準備金の既積立額は¥500,000である。

利益準備金；会社法が定める金額、配当金；¥3,000,000、別途積立金；¥800,000

繰越利益剰余金 4,100,000 利益準備金 300,000
当座預金 3,000,000 別段預金 800,000

1. 発行価額：1,000株 × 70,000円 = 70,000,000円
会社法が定める最低限度額は、発行価額の半分と資本金と、
残額を資本準備金とする。

2. 発行価額：1,000株 × 80,000円 = 80,000,000円

5. 利益準備金の積立額は、下記①、②の小さい方の金額

① 配当金 3,000,000円 × $\frac{1}{10}$ = 300,000円

② 資本金 10,000,000円 × $\frac{1}{4}$ - (資本準備金 1,000,000円 + 利益準備金 500,000円)
= 1,000,000円

∴ 300,000円

氏名 _____

採点欄

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 千葉産業㈱は、定期預金（1年満期、年利率3%）¥1,000,000を銀行に預け入れていたが、この定期預金が満期となり、利息¥24,000（源泉所得税20%を控除後）とともに普通預金口座に振り込まれた。

普通預金 1,024,000 定期預金 1,000,000
 仮払法人税等 6,000 受取利息 30,000

2. 決算にあたり、売掛金に対して貸倒引当金を¥70,000計上したが、うち¥20,000は税法上損金に算入することが認められなかった。なお、法人税等の法定実効税率は40%とする。

繰延税金資産 8,000 法人税等調整額 8,000

（その他有価証券とい）

3. 決算にあたり、当期に取得した静岡商事㈱株式（1,000株、1株あたり¥800で取得）の時価評価を行った。当該株式の時価は1株あたり¥900である。全部資本直入法によることとし、税効果会計を適用する。法定実効税率は40%である。

その他有価証券 100,000 繰延税金負債 40,000
 その他有価証券評価差額金 60,000

4. 決算にあたり、消費税の納付額を計算したところ、¥280,000と確定した。なお、当社は消費税の処理方法として、税込方式を採用している。

租税公課 280,000 未払消費税 280,000

1. $1,000,000 \text{円} \times 3\% = 30,000 \text{円}$ 受取利息

30,000円 $\left\{ \begin{array}{l} 20\% \rightarrow 6,000 \text{円 (仮払法人税等)} \\ 80\% \rightarrow 24,000 \text{円 (利息受取分)} \end{array} \right.$

2. $20,000 \text{円} \times 40\% = 8,000 \text{円}$

3. $1,000 \text{株} \times 800 \text{円} = 800,000 \text{円}$ 取得
 $1,000 \text{株} \times 900 \text{円} = 900,000 \text{円}$ 時価
 $\rightarrow + 100,000 \text{円}$

$100,000 \text{円} \times 40\% = 40,000 \text{円}$ (繰延税金負債)

$100,000 \text{円} - 40,000 \text{円} = 60,000 \text{円}$
 (その他有価証券評価差額金)

採点欄

氏名 _____

以下の取引を仕訳しなさい。

1. 当社は2月28日に、アメリカの得意先に商品5,000ドルを輸出し、代金は掛とした。代金の決済日は5月31日の予定であり、2月28日の直物為替相場は1ドル¥105であった。

売掛金 525,000 売上 525,000

2. 当社は決算日(3月31日)を迎え、上記1.について必要な処理を行った。なお、決算日の直物為替相場は1ドル¥108であった。

売掛金 15,000 為替差損益 15,000

3. 上記の売掛金について、アメリカの得意先より5,000ドルの送金があり、銀行で円貨に両替し、当社の当座預金口座に入金された。なお、この日の直物為替相場は1ドル¥110であった。

当座預金 550,000 売掛金 540,000
為替差損益 10,000

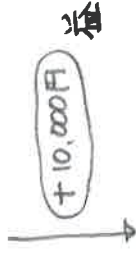
4. 当社はアメリカの仕入先より、商品2,000ドルを掛で仕入れた。この日の直物為替相場は1ドル¥113であったが、取引銀行との間で1ドル¥115の為替予約を行った。

仕入 230,000 買掛金 230,000

1. $5,000 \text{ドル} \times 105 \text{円} = 525,000 \text{円}$



2. $5,000 \text{ドル} \times 108 \text{円} = 540,000 \text{円}$



3. $5,000 \text{ドル} \times 110 \text{円} = 550,000 \text{円}$

4. $2,000 \text{ドル} \times 115 \text{円} = 230,000 \text{円}$

* 為替予約を行って、Fで、予約レートを集める。

採点欄

氏名 _____

以下の本支店会計における仕訳を行いなさい。

1. 支店は本店に対し現金¥30,000を送付した。この場合における本店の仕訳を行いなさい。

現金 30,000 支店 30,000

2. 支店は本店の売掛金¥80,000を得意先から現金で回収した。この場合における支店の仕訳を行いなさい。

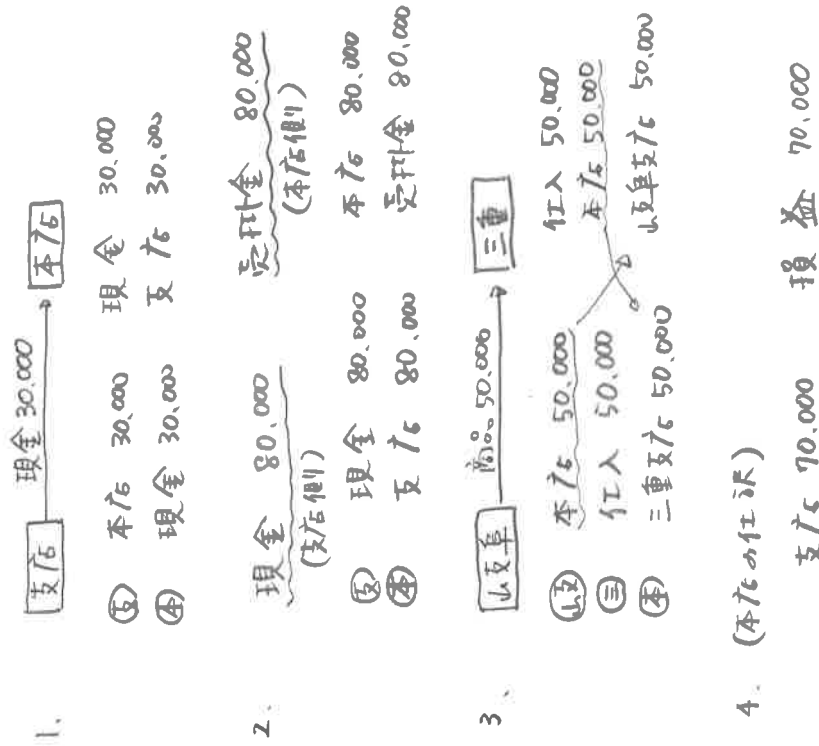
現金 80,000 本店 80,000

3. 岐阜支店は三重支店に対して、原価¥50,000の商品を送付した。当社は本店集中計算制度を採用している。この場合における本店の仕訳を行いなさい。

三重支店 50,000 岐阜支店 50,000

4. 決算にあたり、支店の当期純利益が¥70,000であることがわかった。この場合における支店の仕訳を行いなさい。

損益 70,000 本店 70,000



採点欄

氏名 _____

以下の連結会計における仕訳を行いなさい。

1. P社はS社の発行する株式の80%を¥1,700,000で取得して支配した。このときのS社の資本金は¥1,200,000、利益剰余金は¥800,000であった。この場合の投資と資本の相殺消去仕訳を行いなさい。

資本金 1,200,000 子会社株式 1,700,000
 利益剰余金 800,000 非支配員持分 400,000
 のれん 100,000

2. P社とS社の投資と資本の相殺消去仕訳の結果、のれんが¥100,000であった。当該のれんを20年で償却する場合の仕訳を行いなさい。

のれん償却P 5,000 のれん 5,000

3. S社の当期純利益は¥400,000であった。P社はS社の発行済株式の80%を所有し支配している。この場合の当期純利益の按分の仕訳を行いなさい。

非支配員株式に帰属する当期純利益 80,000 非支配員持分 80,000

4. S社は¥200,000の配当を行っている。P社はS社の発行済株式の80%を所有し支配している。この場合の配当金の相殺・修正仕訳を行いなさい。

受取配当金 160,000 自己当金 200,000
 非支配員持分 40,000

資本金 利益剰余金
 S社の純資産総額: 1,200,000円 + 800,000円 = 2,000,000円

2,000,000円 <math>\begin{cases} 80\% & \text{親会社(P社)分 } 1,600,000円 \\ 20\% & \text{非支配員持分 } 400,000円 \end{cases}>

のれん: S株式の取得原価
 1,700,000円 - 1,600,000円 = 100,000円

2. 100,000円 ÷ 20年 = 5,000円

非支配員株式の時価比準

3. 400,000円 × 20% = 80,000円
(100% - 80%)

4. 200,000円 × 80% = 160,000円 (親会社P社が受け取った) 配当金
 200,000円 - 160,000円 = 40,000円 (非支配員持分が受け取った) 自己当金

採点欄

氏名 _____

以下の資料にもとづいて、連結会計における未実現利益を消去する仕訳を行いなさい。

(資料)

P社はS社の発行済株式の80%を取得し支配している。以前よりP社はS社に原価の20%を加算した価額で商品を販売している。S社の在庫にはP社から購入したものが期首に¥120,000、期末に¥144,000あった。

1. 期末商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

売上原価 24,000 商品 24,000

2. 期首商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

利益剰余金期首残高 20,000 売上原価 20,000

(資料)

P社はS社の発行済株式の80%を取得し支配している。以前よりS社はP社に原価の20%を加算した価額で商品を販売している。P社の在庫にはS社から購入したものが期首に¥120,000、期末に¥144,000あった。

3. 期末商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

売上原価 24,000 商品 24,000
非支配株主持分 4,800 非支配株主持分当期利益 4,800

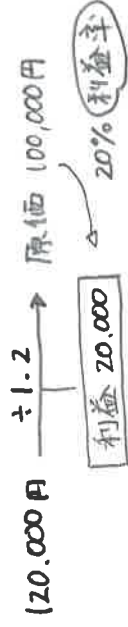
4. 期首商品に含まれる未実現利益の消去の仕訳を行いなさい。

利益剰余金期首残高 20,000 売上原価 20,000
非支配株主持分当期利益 4,000 利益剰余金期首残高 4,000

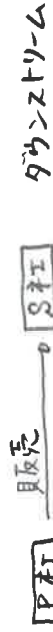
< 期末商品に含まれる未実現利益 >



< 期首商品に含まれる未実現利益 >



1. 2.



3. 4.



期末商品に含まれる未実現利益 \times 非支配株主持分の持分比率 = $\frac{24,000 \text{円}}{100\% - 80\%} \times 20\% = \underline{\underline{4,800 \text{円}}}$

期首商品に含まれる未実現利益 \times 20% = $\frac{20,000 \text{円}}{100\% - 80\%} \times 20\% = \underline{\underline{4,000 \text{円}}}$